

この建物の最も古い部分は 1896 年に建てられ、もともとは皇族が、当時皇室庭園であったこの場所の自然の美しさを楽しみながらくつろぐために利用していました。一見したところ、この建物には 19 世紀後半にアメリカで流行したスティック・スタイルという建築様式が用いられているように見えますが、もっとよく見てみると、20 世紀初頭にきわめて重視されるようになった西洋の建築様式とともに、日本の美も取り入れられていることがわかります。特に旧御居間では、和洋折衷の雰囲気演出されています。

元の建物はかなり小さいものでしたが、数十年にわたって少なくとも 4 回の改築を重ね、1921 年の旧御食堂の増設以後、この小さな御休所は来客をもてなすための場所として使われるようになりました。隣接する庭園で栽培された花々でダイニングテーブルを飾った、皇族主催の昼餐会や晩餐会がこの場所で数多く開かれました。

かつての温室へと通じる廊下は当初は覆われておらず、後に追加された窓を見てみると、ゆがんだ形をしていることがわかります。これは当時の手作りガラスに一般的に見られる特徴です。この建物には装飾的な切妻屋根と、来客と車を雨風から守るために設計された屋根付きの車寄せがあります。

2001 年に、旧洋館御休所は重要文化財に指定されました。